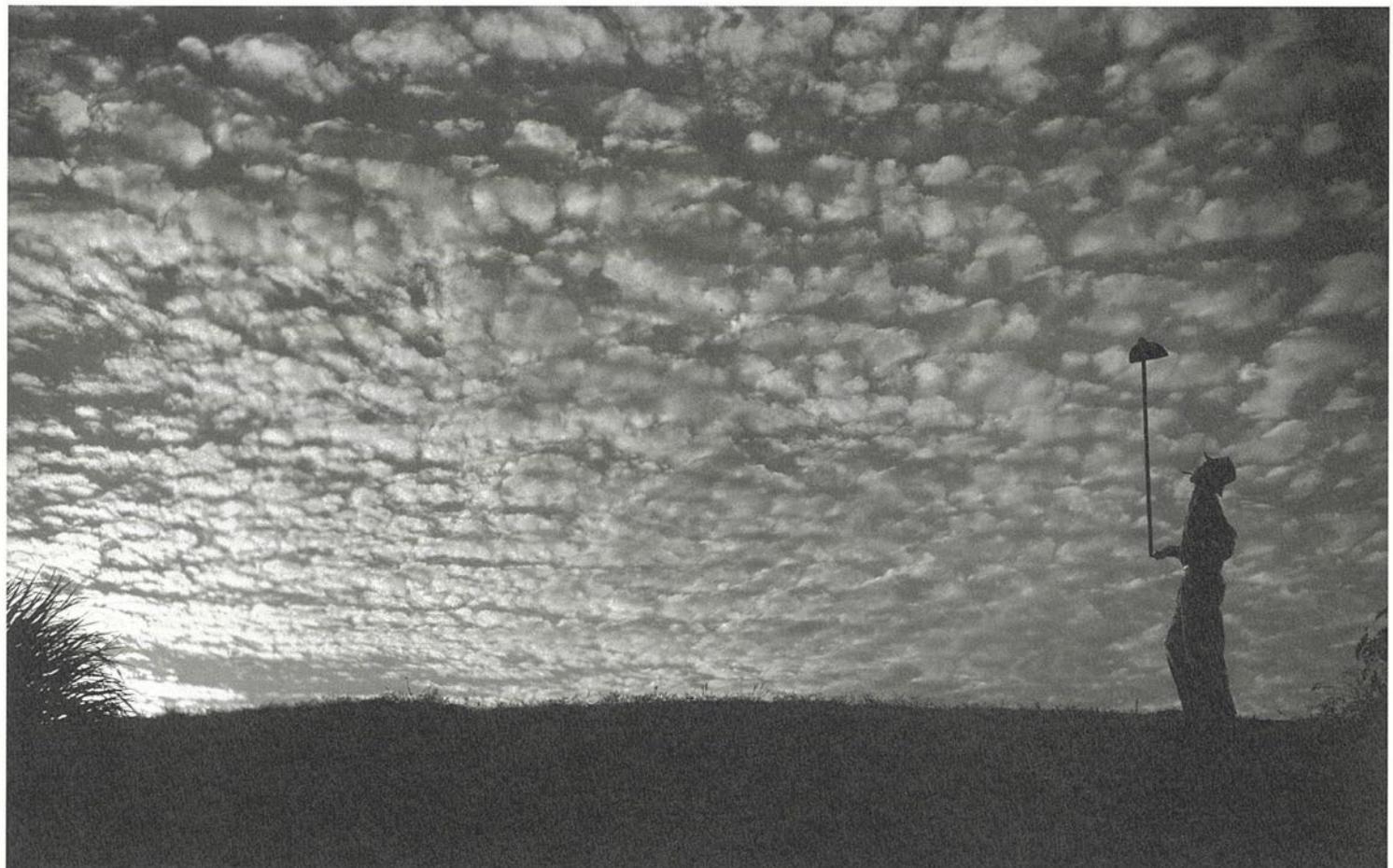


ブラジルの大地と光、  
ささやかで、愛おしい家族の風景  
鍬を持ち、カメラを肩にかけて…  
ブラジルの移民、  
大原治雄の日本初の展覧会。



朝の雲、1952年 パラナ州テラ・ボア ©Haruo Ohara/Instituto Moreira Salles Collections

# HARUO OHARA

## 大原治雄写真展—ブラジルの光、家族の風景

2016.4.9 /土\_6.12 /日 会期中無休 9:00-17:00 [入場は16:30まで]※初日は10:00からの開展式終了後

観覧料 | 一般前売720円・一般900円(720円)・大学生600円(480円)・高校生以下は無料

※( )内は20名以上の団体割引料金。※年間観覧券所持者(2,580円)は無料。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

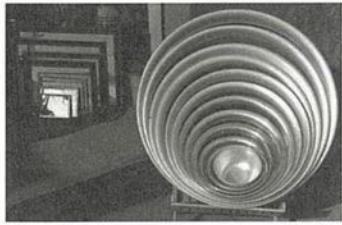
主催 | 高知県立美術館、モレイラ・サーレス財団、駐日ブラジル大使館、NHK高知放送局 後援 | 高

知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、RKC高知放送、KUTVテレビ高知、KSSさんさんテ

レビ、KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送 企画協力 | 株式会社コンタクト

IMS 駐日ブラジル大使館  
[ o ] [ o ]  
EMBAIXADA DO BRASIL EM JAPÃO

高知県立美術館  
THE MUSEUM OF ART, KOCHI  
<http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum>



1. 霜害の後のコーヒー園、1940年頃 バラナ州ロンドリーナ

2. サナダ・ヒトシの農地、1955年 バラナ州ロンドリーナ

3. 花壇での遊び、1950年頃 バラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ

4. 家族の集合写真、1950年頃 バラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ

5. セルフポートレート：トミタ農園の竹林にて、1953年 バラナ州ロンドリーナ

6. 潟、1957年 バラナ州ロンドリーナ

“猫の目の如き天気がざあざあつ  
時々灰色の雲が通ると大粒の水滴が落ちる  
太陽にてらされてまっ白い糸が  
天と地をつなぐやうに思える” 大原治雄の日記より

高知県いの町から農業移民としてブラジルに渡った大原治雄(1909～1999)は、17歳でブラジルに渡り70年余りをこの地で暮らしました。大原は、家族や仲間たちと切り拓き育て上げた広大な農場、愛着ある農園で働く人々の日常や愛する家族の姿を、農作業のかたわら、こつこつと穏やかに写し撮りました。これらの作品は、言葉に表すことのできない、幸福な感情を私たちの心のなかに生み出してくれます。

大原の写真はブラジル写真界で高く評価されており、重要な写真家の一人として位置づけられていますが、日本ではこれまで紹介されたことがなく、本展が大原治雄の日本初の展覧会となります。

本展は、ブラジル屈指の写真アーカイブス、モレイラ・サレス財団の大原コレクションから約180点のモノクローム写真を展示します。大原の写真から、普遍的な人間や自然への賛歌を感じていただけることでしょう。

## 関連企画

**4/9 (土) 11:00～12:30**

### 記念講演会

「大原治雄作品の魅力について」

本展監修者セルジオ・ブルジ氏

(モレイラ・サレス財団写真部門総監督)に大原治雄作品の魅力についてお話しいただきます。

\*逐次通訳付き

会場 | 1階講義室(60席) 入場無料、申込不要

**4/24 (日) 14:00～15:30**

### レクチャー

「高知とブラジル移民、  
大原治雄の足跡を訪ねて」

ブラジル移民史における大原治雄の存在と位置づけについて探ります。

講師 | 酒井邦博氏 (『移民の国に咲いた花～日本・ブラジル120年～』NHK制作局ディレクター)、

中村茂生氏(早稲田大学移民・エスニック文化研究所招聘研究員)

会場 | 1階講義室(60席) 入場無料、申込不要

### ギャラリートーク・ディ

県内学校教員を対象にしたギャラリー・トークと、学校利用についての相談会。要電話申込。

4/17(日) 14:00～15:30 集合場所 | 第1会場前

### 担当学芸員によるギャラリー・トーク

4/17、5/1、8、15、22、29 各日 14:00～15:00

●英語通訳付き 5/22(日)  
Curator's Gallery Talk with English Translation/Sun, 22nd April, 2pm  
●手話通訳付き 5/29(日)  
展示会チケットをお持ちのうえ2階第1会場前にお集まりください。

### 春の定期上映会「ブラジル映画特集」

5/28(土)、29(日) 美術館ホール

\*詳細は、上映会チラシをご参照ください。

### ギャラリートーク・映画

## 有資格者による 無料託児サービス

日時 | 5/18(水)～22(日)各日 10:00～12:00、13:30～15:30 入替制 定員 | 各回10名 料金 | 無料(要本展観覧券)

対象 | 本展を鑑賞される方のご家族で、生後6ヶ月から就学前のお子さま 申込方法 | お電話で仮予約のうえ、申込書を5/11(水)までにお送りください。

## 前売券販売所

高知県立美術館ミュージアムショップ、高新ブレイガイド、高知市文化プラザミュージアムショップ、

高知大丸ブレイガイド、サニーマート(一部店舗を除く)、高知県庁生協売店、こうち生活協同組合、

ホームセンター・マルニ・イエローハット(高知県南国店のみ)・アシストファーム・ホームセンター

ハマート(一部店舗を除く)、ローソンチケット(Lコード65842)

交通案内 路面電車：はりまや橋からとさでん交通路面電車「ごめん」、「領石通」または「文珠通」行きで15分、「県立美術館」下車、徒歩5分。バス：とさでん交通バス「高知医大線」、「県立美術館前」下車すぐ。とさでん交通バス「高知県立大学・医療センター線」、「美術館通」下車、徒歩5分。空港連絡バス：高知龍馬空港から、高知市内一空港間を結ぶ連絡バス「西高須通」で下車、徒歩約10分。車・タクシー：JR高知駅から約20分。高知龍馬空港からは30分、高知自動車道南国インターから15分、高知インターから10分(無料駐車場あり)。

お問い合わせ | 高知県立美術館 高知市高須353-2 tel:088-866-8000 fax:088-866-8008



**高知県立美術館**  
THE MUSEUM OF ART, KOCHI

大原治雄 写真展

# 家族の風景 ブラジルの光、

Haruo Ohara

Haruo Ohara

2016年6月18日[土]—7月18日[月・祝]

休館日 | 月曜日 (7月18日は開館) 開館時間 | 午前10時から午後6時まで (入館は午後5時半まで)

入館料 一般700(600)円、大高生350(250)円、中小生150(100)円、

\* ( )内は20名以上の団体割引 \*兵庫県内の小中学生はコロナカード提示にて無料

\* 4市1町在住(伊丹市・川西市・宝塚市・三田市・猪名川町)の高齢者割引有(平日60歳以上、土日祝65歳以上)

主催

伊丹市立美術館(公益財團法人伊丹市文化振興財團・伊丹市)  
モレイラ・サーレス財團、駐日ブラジル大使館

共催

伊丹市教育委員会

後援

NHK神戸放送局

企画協力

株式会社コンタクト

伊丹市立美術館

IMS

駐日ブラジル大使館  
[<O>][○]  
EMBAIXADA DO BRASIL EM TÓQUIO

治雄の甥・筑田エリオとイチジクの木、1955年 / パラナ州ロンドリーナ  
© Haruo Ohara / Instituto Moreira Salles Collections

# 大原治雄 写真展

## ブラジルの光、 家族の風景

Haruo Ohara

2016年6月18日(土) — 7月18日(月・祝)

休館日 | 月曜日 (7月18日は開館) 開館時間 | 午前10時から午後6時まで (入館は午後5時半まで)

ブラジル写真界ではすでに高く評価されており、重要な写真家の一人として位置づけられている大原治雄(1909-1999)。17歳(1927年)で神戸港からブラジルに移住した大原は、南部パラナ州ロンドリーナで農園を経営しながら、アマチュアカメラマンとして写真を撮りつづけました。新天地で広大な農園を切り拓き、家族や仲間たちとの農作業のかたわら、身近な風景を柔らかな光をもって撮影しつづけた写真は、過酷な労働を感じさせることなく、日常のささやかな喜び、自然の美しさ、そして人間贊歌に満ちています。それは、現代の私たちにとってどこか懐かしく、新鮮なみずみずしさを感じさせます。

本展は、ブラジル屈指の写真アーカイブス「モレイラ・サレス財団」の大原コレクションから約180点のモノクローム写真を展示し、日本ではまだ知られていない大原治雄の写真を、関西で初めて大規模にご紹介するものです。ブラジルの大地で生きた日本人写真家・大原治雄という新しい発見に、ぜひお立ち会いください。

公式図録 3,132円(税込)

貴重なモノクロ写真180点を収録した、日本初となる大原治雄・写真集。

## 伊丹市立美術館

〒664-0895 兵庫県伊丹市宮ノ前2-5-20 tel: 072 772 7447

<http://www.artmuseum-itami.jp>



### 交通のご案内

阪急伊丹駅より徒歩北東へ約9分 JR伊丹駅より徒歩北西へ約6分

阪急バスの伊丹中央停留所より徒歩北へ約3分

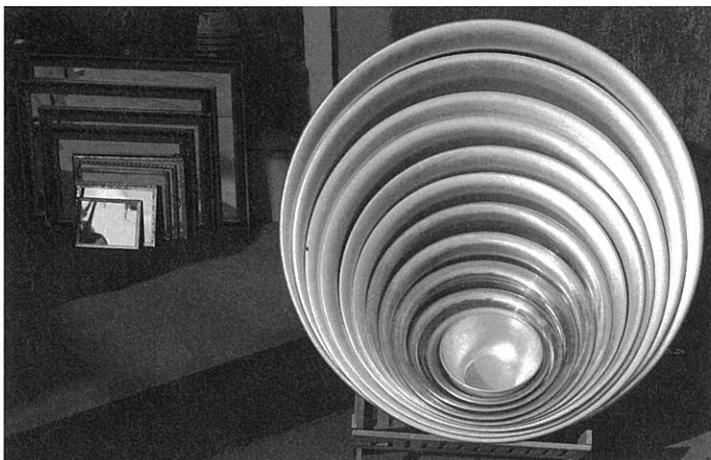
専用駐車場はありません。宮ノ前地下駐車場(有料)をご利用ください。



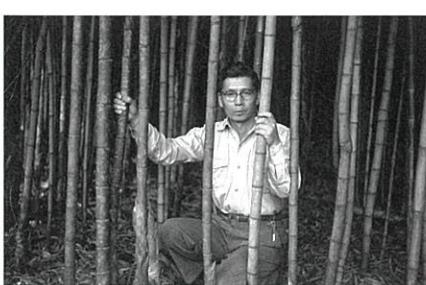
朝の雲, 1952年, パラナ州トゥラ・ポア



見物人, 1961年 / パラナ州ロンドリーナ



渦, 1957年 / パラナ州ロンドリーナ



セルフポートレイト:  
富田農園の竹林にて, 1953年  
パラナ州ロンドリーナ

大原治雄  
Haruo Ohara (1909-1999)

高知県吾川郡三瀬村(現・いの町)に農家の長男として生まれる。1927年、17歳で家族とブラジルに渡り、サンパウロ州のコーヒー農園で働いた後、1933年、パラナ州ロンドリーナへの最初の開拓団として入植。29歳で小型カメラを手に入れ、次第に没頭する。1951年にロンドリーナ市街地に生活を移し、農業経営をしながら国内外の写真サロンに参加。1970年代に地元新聞で紹介され、1998年には「ロンドリーナ国際フェスティバル」および「第2回クリチバ市国際写真ビエンナーレ」で初の個展「Olhares(眼差し)」を開催し、大きな反響を呼ぶ。没後の2008年、遺族により写真と資料一式がモレイラ・サレス財団に寄贈される。

© Haruo Ohara / Instituto Moreira Salles Collections



# HARUO OHARA FOTOGRAFIAS

大原治雄

ブラジルの光、家族の風景

2016年10月22日(土)～12月4日(日)

主催：清里フォトアートミュージアム、モレイラ・サーレス財団、駐日ブラジル大使館 後援：山梨県教育委員会、北杜市教育委員会 企画協力：株式会社コンタクト

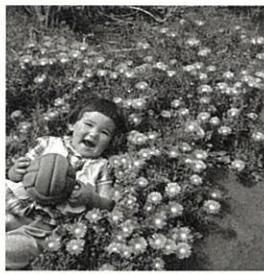
IMS

Instituto Moreira Salles

駐日ブラジル大使館  
[<O>][O]  
EMBAIXADA DO BRASIL EM TÓQUIO

K\* MoPA  
ケイモパ  
清里フォトアートミュージアム  
Kiyosato Museum of Photographic Arts



霜害後のコーヒー農園、  
パラナ州ロンドリーナ、1940年頃真田準の農園、  
パラナ州ロンドリーナ、1955年シャカラ・アララの中心地、  
パラナ州ロンドリーナ、1950年代治雄の甥・眞田エリオとイチジクの木、  
パラナ州ロンドリーナ、1955年移動写真屋：師のジョゼ・ジュリアーニ、  
大聖堂そばのマレシャル・フロリアノ・ペイショット広場にて、  
パラナ州ロンドリーナ、1958年花壇での遊び、  
パラナ州ロンドリーナ、1950年頃

渦、パラナ州ロンドリーナ、1957年

治雄の娘・マリアと甥・富田カズオ、  
パラナ州ロンドリーナ、富田農園、1955年家族の集合写真、  
パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ、1950年頃

## HARUO OHARA FOTOGRAFIAS 大原治雄 ブラジルの光、家族の風景

2016年10月22日(土)～12月4日(日)

1909年、高知県に生まれ、17歳で家族と共にブラジルへ農業移民として渡った大原治雄。24歳での結婚を機に、大切な日の記録を残すことができる写真に興味を抱きます。やがて小型カメラを手に入れ、コーヒーや果樹栽培の合間に撮影。研究を重ねて技術を高め、農業経営の一方で国内外の写真サロンに積極的に参加し、個展が開催されるほどになりました。

大原の写真には、おおらかな大地と農作業の喜び、妻と9人の子どもたちへの慈愛の眼差しが満ちています。構図や光も綿密に計算されており、優れた観察力と写

真への情熱が溢れています。農業を楽しみ、命を育む大地の恵に感謝し、新しい物事を学び、想像力を失わないこと——それらが、写真を通して、大原が子どもたちに伝え、残したかったことなのでしょう。大原の生涯を支えた写真。その作品が湛える豊かな表現力と深い精神性は、時代を超えて、人々の心に響きます。

治雄夫妻に始まり、現在70人を超す大家族となった大原家。一家は、日本人のブラジル移民100周年にあたる2008年、膨大な写真と資料をブラジル屈指のアーカイブ「モレイラ・サーレス財団」へ寄贈しました。

本展では、同財団の所蔵品から、モノクロ作品約180点を展示いたします。

本展は、2016年春、大原の故郷・高知県にて“里帰り展”として始まり、ブラジルへ出航した兵庫に巡回。そして、大原の写真集がブラジルから日本へ初上陸したここ清里が最後の開催地となります。ぜひご覧ください。

### ■参考展示

大原治雄の孫で、写真家のサウロ・ハルオ・オオハラは、2016年4月、“里帰り展”に際し、初めて高知県を訪れました。祖父の原風景を見つめ、撮り下ろした作品《Aurora do Reencontro 再会の夜明け》(土佐白金紙を使用したプラチナ・プリントを含む約15点)を展示いたします。

### 会期中のイベント

詳しくは [www.kmopa.com](http://www.kmopa.com)ご予約は [info@kmopa.com](mailto:info@kmopa.com)

#### アーティスト・トーク：写真家・平間至

- 日時：11月12日(土) 14:00～15:00  
入館料のみ／予約不要
- NHK「日曜美術館」(5月放送)の大原治雄特集で取材を受けた平間氏が、写真家の視点から読み解いた大原作品の魅力を語ります。

#### 会期中の無料ティー

- 1) ハルオ・デー / 11月5日(土)  
大原治雄の誕生日です。  
(1909年11月5日生)
- 2) 山梨県民の日 / 11月20日(日)

#### 利用のご案内

入館料：一般 800円(600円) 学生 600円(400円)  
中・高生 400円(200円) 友の会・会員 無料  
( )内は20名様以上の団体料金  
家族割引 1,200円(2名以上～6名様まで)  
\*障がい者手帳をお持ちの方と付添者1名は無料

#### K・MoPAで星を見る会

- 日 時：11月26日(土) 17:00～19:00
- 講 師：梅本智文(国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 助教)
- 参加費：1,000円(入館料を含む)  
友の会会員・小中学生は無料
- 定 員：15名 要予約

会 期：2016年10月22日(土)～12月4日(日)

休 館 日：毎週火曜日 \*12月5日より冬季休館

開館時間：10:00～18:00(入館は閉館30分前まで)

12月は10:00～17:00

車にて：中央自動車道須玉I.C.

または長坂I.C.より車で約20分

J R：中央本線小淵沢駅にて小海線乗り換え

清里駅下車、車で約10分

アクセスの詳細は、当館HPをご覧ください。

大原治雄写真展  
ブラジルの風景  
家族の光



治雄の娘・マリアと甥・富田カズオ、パラナ州ロンドリーナ、富田農園、1955年

HARUO OHARA

2018

2/17㈯▶5/6㈰

入場無料

海外移住と文化の交流センター 1階特別展示場

開場：午前10時～午後5時（入場は午後4時30分まで）休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

- 主催：一般財団法人 日伯協会、神戸市
- 特別協力：ブラジル大使館、モレイラ・サーレス財団(IMS)
- 後援：神戸市教育委員会
- 企画：コンタクト

H A R U O      O H A R A

# ブラジルの大地に生きた 写真家・大原治雄

開拓農民として日本からブラジルへ渡り、独自の写真世界を築き上げた日本人がいました。その名は、大原治雄。1909(明治42)年、高知県に生まれた治雄は、17歳の時、一家をあげてブラジルに移住、長い年月をかけて原生林を開墾しコーヒー農園を築きあげました。

24歳で、同じ日系移民・幸と結婚。その結婚式を撮影した写真家との交流が、大原を写真の世界へ導く契機となります。小型カメラを手に入れた治雄は、独学で農作業の合間にブラジルの大地の生命力と家族の姿を撮り続けました。1950年代からアマチュア写真家として、国内外の写真展に出品。1970年代に入ると、地元新聞に掲載され、次第にその名を知られるようになっていきました。1998年には、ロンドリーナ国際フェスティバルで初の個展が開催され大きな反響を呼び、その後もクリチバ市国際写真ビエンナーレに2回連続して紹介されるなど、ブラジル国内で高い評価を受けるようになりました。

1999年、ついに故国の地を再びみることなく89歳で永眠。2008年、日本人のブラジル移民100周年を記念して世界屈指の写真アーカイブであり美術館でもあるモレイラ・サレース財団(IMS)に、ネガやプリントをはじめ写真用機材、日記など一連の資料が遺族により寄贈されました。本展は、IMSの全面的協力により代表作30点を展示します。

本年は、日本人のブラジル移住110周年に当たります。この記念すべき年に、ブラジル移住者の心の故郷といえる「旧国立移民収容所」で、大原治雄の写真展が開催されることは望外の喜びです。17歳でブラジルへ渡って以来、故郷の地を踏むことのなかった大原治雄の叶わなかつた願いが、彼の残した写真による展覧会という形で果たされることになります。



霜害の後のコーヒー農園、1940年頃、パラナ州ロンドリーナ



朝の雲、1952年、パラナ州テラ・ボア



花壇での遊び、1950年頃、パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ

©Haruo Ohara/Instituto Moreilla Salles Collection



家族の集合写真、1950年頃、  
パラナ州ロンドリーナ、シャカラ・アララ



○JR・阪神電車「元町」東口より鯉川筋を北へ徒歩15分  
神戸市営地下鉄「県庁前」より、徒歩10分

○神戸市営バス：「三宮駅前」または、「元町駅前」から

⑦系統に乗り車「山本通3丁目」下車、北西へ徒歩3分

または「山本通4丁目」下車、東へ徒歩3分

\*お車の方は、当センター北側の有料駐車場をご利用ください。

NIPPaku Since 1926

一般財団法人 日伯協会 Associação Nipo-Brasileira

〒650-0003 神戸市中央区山本通3丁目19-8 海外移住と文化の交流センター2階

電話・ファックス 078-230-2891 E-mail info@nippaku-k.or.jp

URL <http://www.nippaku-k.or.jp>